

アプリ分析

v2.0.0

- 商標について

- 記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。また、当社製品には他社の著作物が含まれていることがあります。
- 個別の商標・著作物に関する注記については、サイボウズのWebサイトを参照してください。
<https://cybozu.co.jp/logotypes/other-trademark/>
- なお、本文および図表中では、(TM)マーク、(R)マークは明記していません。

目次

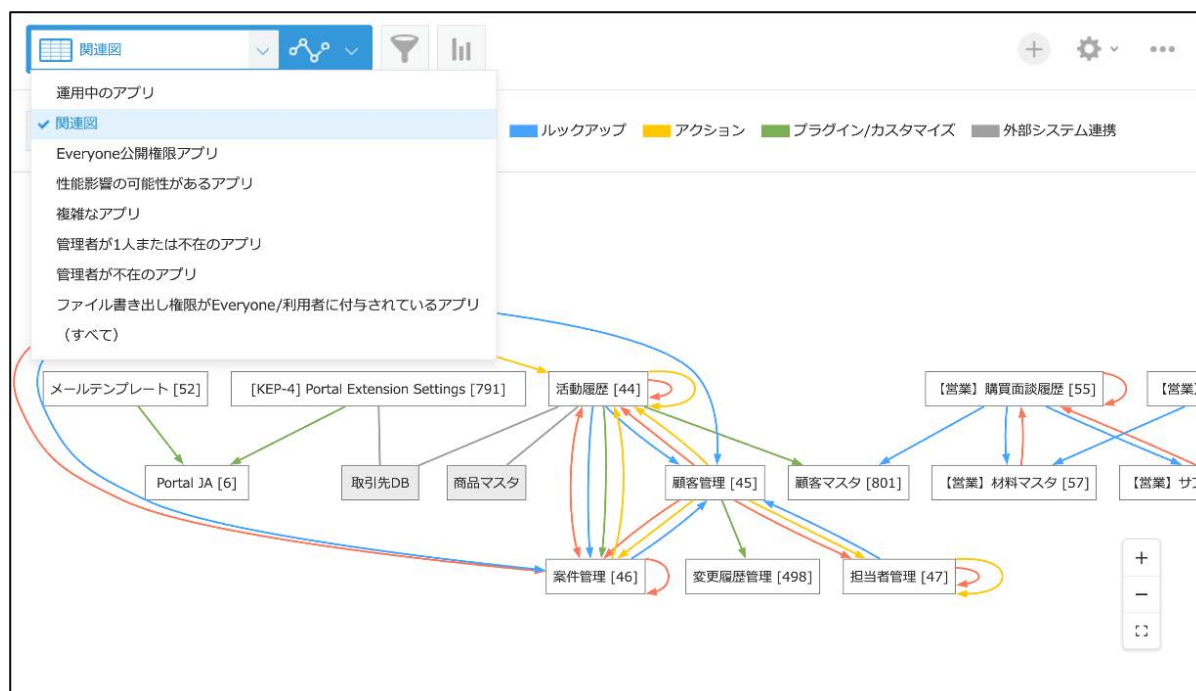
1 章 アプリ分析機能の概要	4
2 章 動作環境	6
3 章 アプリ分析機能の設定	7
3.1. STEP1：アプリ分析機能の設定の準備をする	7
3.2. STEP2：設定ファイルに情報を入力する	12
3.3. STEP3：暗号化キーと復号化キーを生成する	25
3.4. STEP4：暗号化パスワードを生成する	25
4 章 アプリ分析の実行	27
5 章 アプリ分析結果の見かた	30
5.1. 「レコードの一覧」画面	30
5.1.1. 関連図	31
5.1.2. 一覧	33
5.2. 「レコードの詳細」画面	35
5.2.1. 特徴分析レーダーチャートとアプリ関連図	37
5.2.2. 利用状況	39
5.2.3. アプリ情報	40
5.2.4. スペース情報	43
5.2.5. 設計情報	44
5.2.6. プラグイン	48
5.3. グラフ	49
6 章 モニタリング機能の追加	52
6.1. モニタリング機能の設定	52
6.1.1. STEP1：アプリを追加する	53
6.1.2. STEP2：カスタマイズファイルをアプリに適用する	55
6.1.3. STEP3：設定ファイルに情報を入力する	57
6.1.4. STEP4：モニタリングツールを配置する	59
6.1.5. STEP5：モニタリング条件と通知先を設定する	59
6.2. モニタリングの実行	63
6.3. モニタリング結果の見かた	65
6.3.1. 「レコードの一覧」画面	65
6.3.2. 「レコードの詳細」画面	66
7 章 制限事項	70

1 章 アプリ分析機能の概要

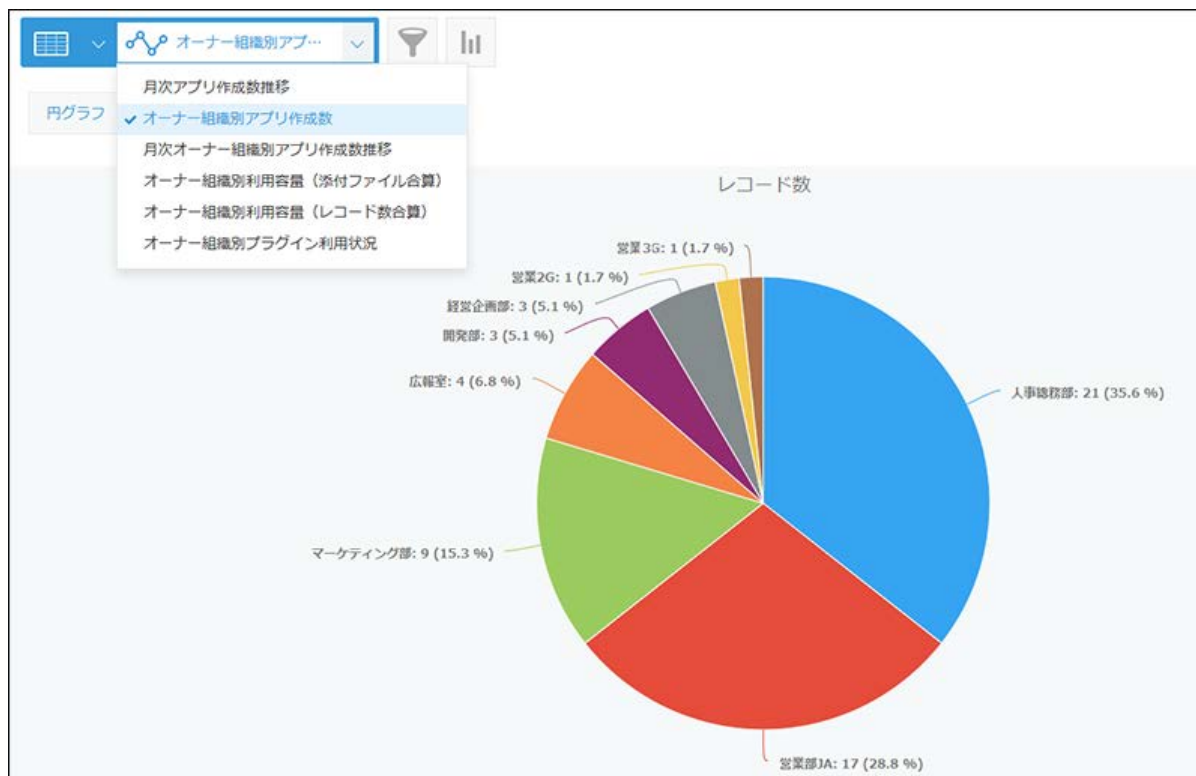
アプリ分析機能を使用すると、ドメイン内のアプリについて、次のような内容が一覧やグラフで可視化できます。

- アプリの他アプリや外部システムとの関係
- アプリの管理部門
- アプリの権限設定の状態
- アプリの利用と管理の状況

たとえば、定期的なアプリの棚卸しなどで、各アプリの利用状況や、セキュリティや性能の面でリスクのあるアプリを確認できます。アプリ間や他システムとのつながりも把握できるため、アプリを整理する場合にも便利です。



部門ごとのアプリの利用と管理状況を確認し、部門別の分析を行うこともできます。また、ドメイン内のアプリの権限の設定をまとめて確認でき、社内にあるアプリの統制にも役立ちます。



2 章 動作環境

Webブラウザの動作環境はkintoneの動作環境に準じます。

詳細は、次のページを確認してください。

[動作環境](#)

本機能はkintoneワイドコースをご契約いただいているお客様のみ利用可能です。ワイドコース以外では正常に動作しません。

本機能を使用するには、Node.js の最新LTS版をインストールして、Node.jsのスク립トが動作する環境（PCやサーバー）が必要です。Node.js のインストールやセットアップについては、本マニュアルの対象外です。次の Node.js のドキュメントを参照してください。

[Node.js](#)

3 章 アプリ分析機能の設定

アプリ分析機能を使い始めるために必要な設定について、説明します。

アプリ分析機能を使うための設定は、次の手順で行います。

[STEP1：アプリ分析機能の設定の準備をする\(7ページ\)](#)

[STEP2：設定ファイルに情報を入力する\(12ページ\)](#)

[STEP3：暗号化キーと復号化キーを生成する\(25ページ\)](#)

[STEP4：暗号化パスワードを生成する\(25ページ\)](#)

! 注意

アプリ分析機能を使うための注意事項は、次のとおりです。

- アプリ分析ツールとアプリ分析キー生成ツールは、kintoneに接続できるセキュリティ上安全なパソコン、またはサーバーで実行してください。
- アプリ分析ツールの実行ユーザーは2要素認証には対応していません。分析対象のkintone環境で2要素認証が必須で設定されている場合、アプリ分析ツールは動作しません。
- 分析対象のkintoneでIPアドレスの制限が設定されている場合、kintoneでアプリ分析ツールが実行される環境のIPアドレスを許可する必要があります。

3.1. STEP1：アプリ分析機能の設定の準備をする

アプリ分析機能の設定のための準備をします。

アプリ分析ツールの実行ユーザーの設定

❗ 注意

アプリ分析ツールを実行するユーザーアカウントは、次の設定が必要です。

- cybozu.com共通管理の管理者の権限がある。
- 表示言語が日本語で設定されている。
「アカウント設定」画面の「言語」で、[日本語]を指定します。

表示言語の切り替えの詳細については、cybozu.comヘルプの次のページを参照してください。

[表示言語を切り替える](#)

Node.jsのインストール

アプリ分析キー生成ツール、アプリ分析ツールを実行する環境に、Node.jsをインストールします。Node.jsは、次のNode.jsのサイトより最新のLTS版をダウンロードします。

[Node.js](#)

アプリ分析結果アプリと外部システム管理アプリの追加

アプリテンプレートを使って、アプリ分析結果アプリと外部システム管理アプリの2つのアプリを一度に追加します。

手順

1. kintoneのポータルで、「アプリ」欄にある+の形をした[アプリを作成する]アイコンをクリックします。



💡 ヒント

[オプション]アイコンをクリックして、[アプリを作成]を選択することもできます。



2. [テンプレートファイルを読み込んで作成]をクリックします。
3. 「テンプレートファイルを読み込んで作成」ダイアログで、[参照]をクリックし、.zipファイル形式のテンプレートファイルを選択します。
4. [アプリを作成]をクリックします。

×

?

ヘルプ

app-analysis_v

_app-template.zip

34 KB

参照

(最大100 MB)

作成をやめる

アプリを作成

これで、アプリが追加できました。

アプリ分析結果アプリの「レコードのアクセス権」の設定について

アプリ分析結果アプリは、運用に応じてアクセス権を設定します。

たとえば、分析対象の各アプリのアプリ管理者とcybozu.com共通管理者のみがアクセスできるようにアクセス権を設定する場合、「レコードのアクセス権」画面で次のように設定します。

ユーザーを追加	🔍	👤	または	フォームのフィールドを追加 ▼
ユーザー/組織/グループ	許可する操作			
 アプリ管理者 - グループ	☒ 閲覧	☒ 編集	☐ 削除	×
 アプリ管理者 - 組織	☒ 閲覧	☒ 編集	☐ 削除 ☐ アクセス権の継承	×
 アプリ管理者 - ユーザー	☒ 閲覧	☒ 編集	☐ 削除	×
 Administrators	☒ 閲覧	☒ 編集	☒ 削除	×
 Everyone	☐ 閲覧	☐ 編集	☐ 削除	

- アプリ管理者
 - 閲覧：許可する
 - 編集：許可する
 - 削除：許可しない

10

アプリ分析 v2.0.0

- cybozu.com共通管理者

- 閲覧：許可する

- 編集：許可する

- 削除：許可する

- Everyone

- 閲覧：許可しない

- 編集：許可しない

- 削除：許可しない

kintoneのレコードのアクセス権の詳細については、kintoneヘルプの次のページを参照してください。

[レコードにアクセス権を設定する](#)

アプリ分析結果アプリへのカスタマイズファイルの適用

アプリ分析結果アプリにカスタマイズファイルを適用します。この操作には、kintoneシステム管理権限が必要です。

手順

1. [「アプリ分析結果アプリと外部システム管理アプリの追加」](#)で追加したアプリ分析結果アプリを開きます。
2. 「レコードの一覧」画面の右上にある歯車の形をしたアプリ設定アイコンをクリックします。
3. [設定]タブの「カスタマイズ／サービス連携」にある[JavaScript / CSSでカスタマイズ]を選択します。
4. 「適用範囲」で[すべてのユーザーに適用]を選択します。
5. 「PC用のJavaScript / CSSファイル」の「JavaScriptファイル」の[アップロードして追加]をクリックし、次のファイルを追加します。
app-analysis-chart-customization_v*.*.js
6. 「PC用のJavaScript / CSSファイル」の「CSSファイル」の[アップロードして追加]をクリックし、次のファイルを追加します。
app-analysis-chart-customization_v*.*.css
7. 画面右下の[保存]をクリックします。

8. 画面右上の[アプリを更新]をクリックします。
9. 確認ダイアログで[アプリを更新]をクリックします。
カスタマイズファイルがアプリに反映されます。

これでアプリ分析結果アプリにカスタマイズファイルが適用されました。

3.2. STEP2：設定ファイルに情報を入力する

アプリ分析実行の設定ファイル（config.json）を編集します。

手順

アプリ分析実行の設定ファイルは、アプリ分析キー生成ツール、アプリ分析ツールと同じ階層に配置します。

```
.  
├ app-analysis-key-generation-tool_v*.*.js  
├ app-analysis-tool_v*.*.js  
└ config.json
```

1. アプリ分析実行の設定ファイル（config.json）ファイルを、任意のエディタで開きます。文字コードはUTF-8に設定します。
2. 各フィールドに情報を入力します。
各フィールドについての詳細は、次の項目を参照してください。
[アプリ分析機能のためのフィールド](#)
3. ファイルを保存します。

アプリ分析機能のためのフィールド

アプリ分析機能のためのフィールドについて説明します。

⚠ 注意

すべてのフィールドについて入力が必要です。

| showLogInfo

型

文字列

説明

INFOレベルのログ情報を表示するかを設定します。

次の選択肢から1つを指定します。

- true：アプリ分析ツールの動作について、INFOレベルのログ情報を表示します。
- false：アプリ分析ツールの動作について、INFOレベルのログ情報を表示しません。

いずれを指定した場合も、ERRORレベルのログ情報は表示されます。

| analysisDomains.domainUrl

型

文字列

説明

分析対象のドメインのURLを入力します。

URLは、「https://」で始まる必要があります。有効なURLの形式は、次のとおりです。

- https://xxx.cybozu.com
- https://xxx.cybozu.com/

| analysisDomains.username

型

文字列

説明

アプリ分析ツールを実行する、分析対象のドメインのログイン名を入力します。
ログイン名については、cybozu.comヘルプの次のページを参照してください。

[ログイン名](#)

アカウントは、cybozu.com共通管理の管理者の権限を持ち、表示言語が日本語で設定されている必要があります。「アカウント設定」画面の「言語」で、[日本語]を指定します。[Webブラウザの設定に従う]を選択して日本語で表示されていても、アプリ分析ツールは正常に動作しません。

表示言語の切り替えの詳細については、cybozu.comヘルプの次のページを参照してください。

[表示言語を切り替える](#)

| analysisDomains.encryptedPassword

型

文字列

説明

アプリ分析ツールを実行するユーザーの暗号化されたパスワードを入力します。

補足

STEP2での入力不要です。[STEP3\(25ページ\)](#)と[STEP4\(25ページ\)](#)でアプリ分析キー生成ツールでパスワードの生成を実行後、結果の値をコピーし、このフィールドに入力します。

| analysisDomains.systemAdminDepartment

型

文字列配列

説明

システム管理部門を組織コードで入力します。システム管理部門とは、kintoneや外部システムの管理をする部門です。

アプリ分析結果アプリでは、「アプリ管理者 - システム管理組織/グループに管理権限あり」で使用されます。

補足

入力した組織コードが正しくない場合、アプリ分析ツールを実行した際に該当の組織コードは無視されます。エラーメッセージは表示されません。

| analysisDomains.systemAdminGroup

型

文字列配列

説明

システム管理グループをグループコードで入力します。システム管理部門とは、kintoneや外部システムの管理をする部門です。

アプリ分析結果アプリでは、「アプリ管理者 - システム管理組織/グループに管理権限あり」で使用されます。

補足

入力したグループコードが正しくない場合、アプリ分析ツールを実行した際に該当のグループコードは無視されます。エラーメッセージは表示されません。

| analysisDomains.everyoneEquivalentDepartment

型

文字列配列

説明

Everyone相当組織を組織コードで入力します。

Everyone相当組織には、すべてのユーザーが含まれていることを想定しています。ツールを実行するcybozu.com共通管理者も、すべてのEveryone相当組織に含まれていることを確認してください。

アプリ分析結果アプリでは、「アプリ利用者 - Everyone相当組織/グループアクセス可」や「スペース利用者 - Everyone相当組織/グループアクセス可（公開スペースに所属、またはスペースに所属しない場合もYES）」で使用されます。

補足

入力した組織コードが正しくない場合、アプリ分析ツールを実行した際に該当の組織コードは無視されます。エラーメッセージは表示されません。

| analysisDomains.everyoneEquivalentGroup

型

文字列配列

説明

Everyone相当グループをグループコードで入力します。

デフォルトのEveryoneのグループコードも入力します。デフォルトのEveryoneのグループコードが含まれない場合、Everyoneは、Everyone相当グループとして認識されません。

Everyoneグループについては、cybozu.com ヘルプの次のページを参照してください。

[Everyone](#)

Everyone相当グループには、すべてのユーザーが含まれていることを想定しています。ツールを実行するcybozu.com共通管理者も、すべてのEveryone相当グループに含まれていることを確認してください。

アプリ分析結果アプリでは、「アプリ利用者 - Everyone相当組織/グループアクセス可」や「スペース利用者 - Everyone相当組織/グループアクセス可（公開スペースに所属、またはスペースに所属しない場合もYES）」で使用されます。

補足

入力したグループコードが正しくない場合、アプリ分析ツールを実行した際に該当のグループコードは無視されます。エラーメッセージは表示されません。

| analysisApp.appld

型

文字列

説明

kintoneのアプリ分析結果アプリのIDを入力します。

| analysisBatchRecordsSize.perAdd

型

文字列

説明

1回のAPIリクエストで追加するアプリ分析結果アプリのレコード数を、1から100の範囲で指定します。初期値が設定されています。必要に応じて値を変更してください。

| analysisBatchRecordsSize.perUpdate

型

文字列

説明

1回のAPIリクエストで更新するアプリ分析結果アプリのレコード数を、1から100の範囲で指定します。初期値が設定されています。必要に応じて値を変更してください。

| complexityThreshold

型

数値配列

説明

アプリ設計の複雑さのしきい値を入力します。初期値が設定されています。必要に応じて値を変更してください。

アプリ分析結果アプリでは、[アプリ設計の複雑さレベル]で使用されます。

補足

入力する値の条件は、次のとおりです。

- 配列の長さ：4
- 配列の要素：昇順
- 0より大きい数値

radarChart.recordsThreshold

型

数値配列

説明

レーダーチャート内のアプリのレコード数のしきい値を入力します。初期値が設定されています。必要に応じて値を変更してください。

アプリ分析結果アプリでは、[特徴分析レーダーチャート]で使用されます。

補足

入力する値の条件は、次のとおりです。

- 配列の長さ：4
- 配列の要素：昇順
- 0 より大きい数値

radarChart.attachmentCapacityThreshold

型

数値配列

説明

レーダーチャート内のアプリの添付ファイルの容量のしきい値を入力します。初期値が設定されています。必要に応じて値を変更してください。

アプリ分析結果アプリでは、[特徴分析レーダーチャート]で使用されます。

補足

入力する値の条件は、次のとおりです。

- 配列の長さ：4

- 配列の要素：昇順
- 0 より大きい数値

radarChart.pluginsThreshold

型

数値配列

説明

レーダーチャート内のアプリにインストールされたプラグインの数のしきい値を入力します。初期値が設定されています。必要に応じて値を変更してください。

アプリ分析結果アプリでは、[特徴分析レーダーチャート]で使用されます。

補足

入力する値の条件は、次のとおりです。

- 配列の長さ：4
- 配列の要素：昇順
- 0 より大きい数値

radarChart.apiRequestsThreshold

型

数値配列

説明

レーダーチャート内のAPIリクエストの数のしきい値を入力します。初期値が設定されています。必要に応じて値を変更してください。

アプリ分析結果アプリでは、[特徴分析レーダーチャート]で使用されます。

 補足

入力する値の条件は、次のとおりです。

- 配列の長さ：4
- 配列の要素：昇順
- 0 より大きい数値

| radarChart.relationsThreshold

型

数値配列

説明

レーダーチャート内のアプリ間の連携数のしきい値を入力します。初期値が設定されています。必要に応じて値を変更してください。
アプリ分析結果アプリでは、[特徴分析レーダーチャート]で使用されます。

 補足

入力する値の条件は、次のとおりです。

- 配列の長さ：4
- 配列の要素：昇順
- 0 より大きい数値

| proxy.enabled

型

文字列

説明

プロキシ認証を利用するかを設定します。「false」を設定すると、以降のproxy関連の項目の入力値は無視されます。

次の選択肢から1つを指定します。

- true：アプリ分析ツールは、設定したプロキシ認証を介して実行されます。
- false：アプリ分析ツールは、プロキシ認証を利用しません。

| proxy.protocol

型

文字列

説明

プロキシサーバーとの通信プロトコルを設定します。「proxy.enabled」フィールドが「true」の場合に、通信プロトコルを入力します。

次の選択肢から1つを指定します。

- http
- https

| proxy.host

型

文字列

説明

プロキシサーバーのホスト名を設定します。「proxy.enabled」フィールドが「true」の場合に、ホスト名を入力します。

プロキシサーバーのIPアドレスもしくはURLで指定してください。

記載方法の例：

- 10.100.10.100
- proxy.example.com

proxy.port

型

文字列

説明

プロキシサーバーのポート番号を入力します。「proxy.enabled」フィールドが「true」の場合に、ポート番号を入力します。

proxy.auth.username

型

文字列

説明

「proxy.enabled」フィールドが「true」で認証を使用する場合に、プロキシサーバーのBasic認証のユーザー名を入力します。

proxy.auth.password

型

文字列

説明

「proxy.enabled」フィールドが「true」で認証を使用する場合に、プロキシサーバーのBasic認証のパスワードを入力します。

モニタリング機能のためのフィールド

モニタリング機能のためのフィールドについて説明します。

補足

モニタリング機能のためのフィールドは、アプリ分析機能の設定と実行が完了したあとで、モニタリング機能を追加する場合に入力します。

モニタリング機能についての詳細は、次のページを参照してください。

[モニタリング機能の追加\(52ページ\)](#)

| monitoringSettingsApp.appId

型

文字列

説明

モニタリング設定アプリのIDを入力します。

| monitoringResultApp.appId

型

文字列

説明

モニタリング結果アプリのIDを入力します。

3.3. STEP3：暗号化キーと復号化キーを生成する

アプリ分析ツールをよりセキュアに実行するために、暗号化機能を用います。
アプリ分析キー生成ツールを使用して、暗号化キー（public-key.ppk）と復号化キー（private-key.ppk）を生成します。

手順

アプリ分析キー生成ツールは、アプリ分析ツールと同じ階層に配置します。

1. コマンドラインインターフェイス（CLI）を開きます。
2. CLIでアプリ分析キー生成ツールの保存されているフォルダに移動します。
3. 次のコマンドを実行します。
`node app-analysis-key-generation-tool_v*.*.js generate-key-pair`
（v*.*は、アプリ分析キー生成ツールのバージョンです。）
4. アプリ分析キー生成ツールと同じフォルダに暗号化キー（public-key.ppk）と復号化キー（private-key.ppk）が生成されます。

3.4. STEP4：暗号化パスワードを生成する

[STEP3\(25ページ\)](#)で生成された暗号化キーを基に、暗号化されたパスワードを生成します。

手順

1. コマンドラインインターフェイス（CLI）を開きます。
2. CLIでアプリ分析キー生成ツールと暗号化キー（public-key.ppk）が保存されているフォルダに移動します。
3. 次のコマンドを実行します。
`node app-analysis-key-generation-tool_v*.*.js encrypt`
（v*.*は、アプリ分析キー生成ツールのバージョンです。）
4. 表示された画面で、パスワードを入力します。設定ファイルの「analysisDomains.username」で指定しているユーザーのパスワードです。設定ファイルについての詳細は、次のページを参照してください。
[STEP2：設定ファイルに情報を入力する\(12ページ\)](#)
5. 画面上に表示された暗号化パスワードを設定ファイルの「analysisDomains.encryptedPassword」に入力します。設定ファイルについての詳細は、次のページを参照してください。
[STEP2：設定ファイルに情報を入力する\(12ページ\)](#)
6. 設定ファイルを保存します。

4 章 アプリ分析の実行

アプリ分析ツールを実行して、アプリ分析を行います。

設定ファイルの内容を変更した場合は、その都度アプリ分析キー生成ツールとアプリ分析ツールを実行してください。

設定ファイルについての詳細は、次のページを参照してください。

[STEP2：設定ファイルに情報を入力する\(12ページ\)](#)

💡 ヒント

アプリ分析ツールは、パフォーマンスを考慮し、夜間など利用の少ない時間帯での定期的な実行を推奨します。

手順

1. コマンドラインインターフェイス（CLI）を開きます。
2. CLIでアプリ分析ツールと復号化キー（private-key.ppk）が保存されているフォルダに移動します。
3. 次のコマンドを実行して、アプリ分析ツールを実行します。
`node app-analysis-tool_v*.*.js`
（v*.*は、アプリ分析ツールのバージョンです。）

アプリ分析の実行が成功すると、「Analyzed data successfully.」というメッセージが表示され、アプリ分析結果アプリに分析結果が反映されます。

実行中にエラーメッセージが表示されても、最終的に「Analyzed data successfully.」が表示された場合は、処理は正常に終了しています。アプリ分析ツールの再実行は不要です。

「Analyzed data successfully.」が表示されずに処理が終了した場合、再度アプリ分析ツールを実行してください。

補足

- 設定ファイル (config.json) の showLogInfo フィールドが true に設定されている場合、アプリ分析ツールの動作についてのINFOレベルのログ情報が表示されます。showLogInfo フィールドについての詳細は、次のページを参照してください。[showLogInfo\(13ページ\)](#)
- 分析対象のドメイン内のアプリ数が多い場合、表示されるログの行数が多くなります。必要に応じて、ログをファイルに出力して確認してください。

他のアプリや外部システムに接続しているアプリがある場合

アプリ分析ツールの実行後、外部システム管理アプリやアプリ分析結果アプリに必要な情報を入力します。

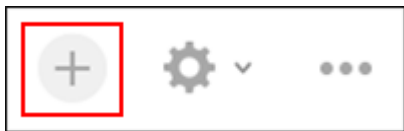
外部システム管理アプリ

次の場合、外部システム管理アプリに、外部システムに関する情報を入力します。

- 分析対象のドメインに、外部システムに接続しているアプリがある。

手順

1. [STEP1\(7ページ\)](#)で追加した外部システム管理アプリを開きます。
2. 「レコードの一覧」画面の右上にある+の形をした[レコードを追加する]アイコンをクリックします。



3. 「外部システム名」に外部システムの名称を入力します。
4. 必要に応じて、「説明」に外部システムについての説明を入力します。
5. [保存]をクリックします。

アプリ分析結果アプリ

次の場合、アプリ分析結果アプリに、アプリが接続しているプラグインや他のアプリ、外部システムに関する情報を入力します。

- 分析対象のドメインに、プラグインやカスタマイズで他のアプリに接続しているアプリがある。
- 分析対象のドメインに、外部システムに接続しているアプリがある。

手順

1. アプリ分析ツールを実行します。
アプリ分析ツールの実行についての詳細は、次のページを参照してください。
[手順](#)
2. [STEP1\(7ページ\)](#)で追加したアプリ分析結果アプリを開いて、各アプリのレコードが登録されていることを確認します。
3. 「レコードの一覧」画面で、該当のアプリのレコードの左側にある「レコードの詳細を表示する」アイコンをクリックします。
4. 「レコードを編集する」アイコンをクリックします。
5. アプリがプラグインやカスタマイズで他のアプリに接続している場合、「このアプリ ⇒ 他アプリ」の「プラグイン/カスタマイズ（このアプリから接続しているアプリ）」にある「アプリID」と「カウント」に値を入力します。
6. アプリが外部システムに接続している場合、「このアプリ ⇄ 外部システム」の「外部システム」にある「外部システム名」に値を入力します。
7. [保存]をクリックします。

補足

アプリ分析結果アプリに手動で情報を入力した場合、アプリ分析結果アプリに分析結果を反映するには、その都度アプリ分析の実行が必要です。

アプリ分析の実行については、次のページを参照してください。

[アプリ分析の実行\(27ページ\)](#)

5 章 アプリ分析結果の見かた

ここでは、アプリ分析結果アプリの見かたを説明します。

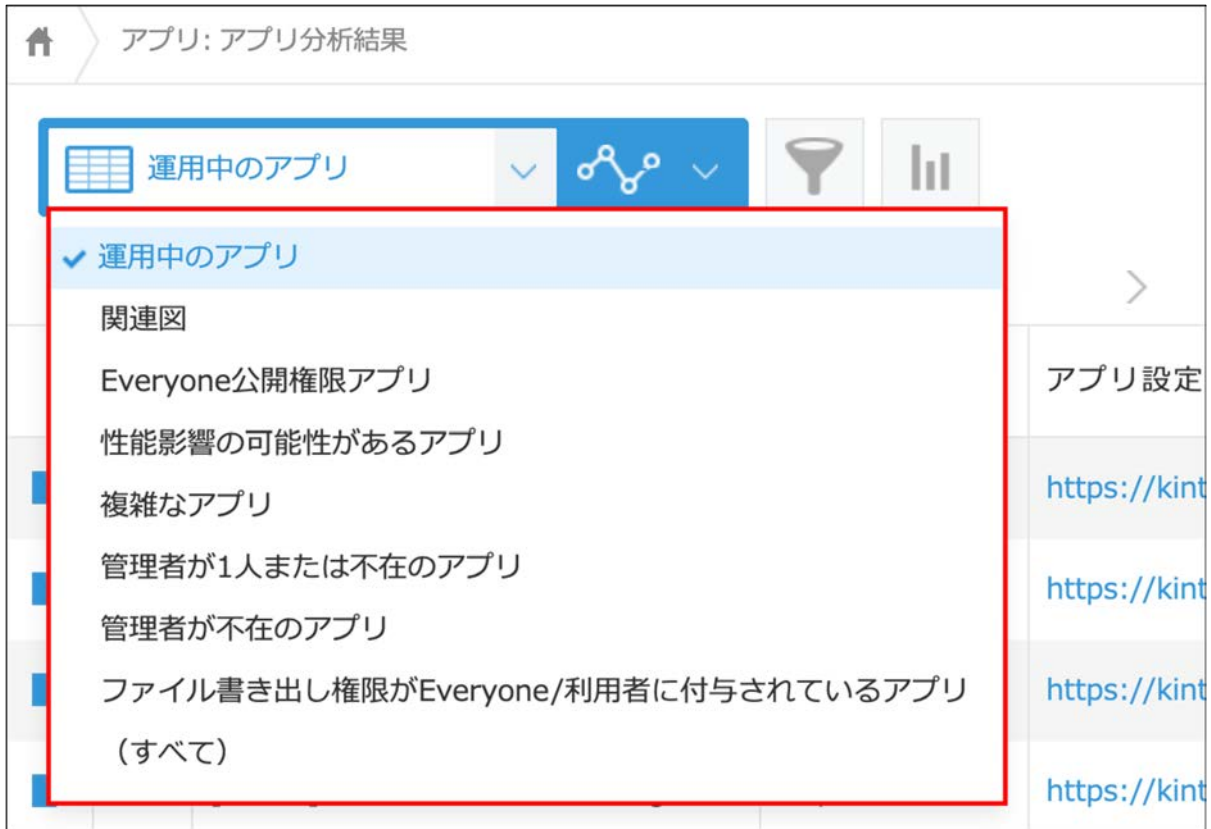
アプリ分析結果アプリに対する補足事項は次のとおりです。

- モバイルでの利用は動作保証外です。
- 「JavaScript / CSSでカスタマイズ」の設定を変更しないでください。分析結果の一部が表示されなくなる可能性があります。
- 次のアプリは分析対象外のため、分析結果に含まれません。
 - ゲストスペース内のアプリ
 - アプリ分析ツールを実行するユーザー以外が作成した、アプリグループが「Private」のアプリ
- 次のスペースの情報は取得できないため、分析結果に含まれません。
 - アプリ分析ツールを実行するユーザーが参加していない非公開スペースのメンバー
- アプリ分析ツールを再実行した場合は、最新の分析結果で上書きされます。

5.1. 「レコードの一覧」画面

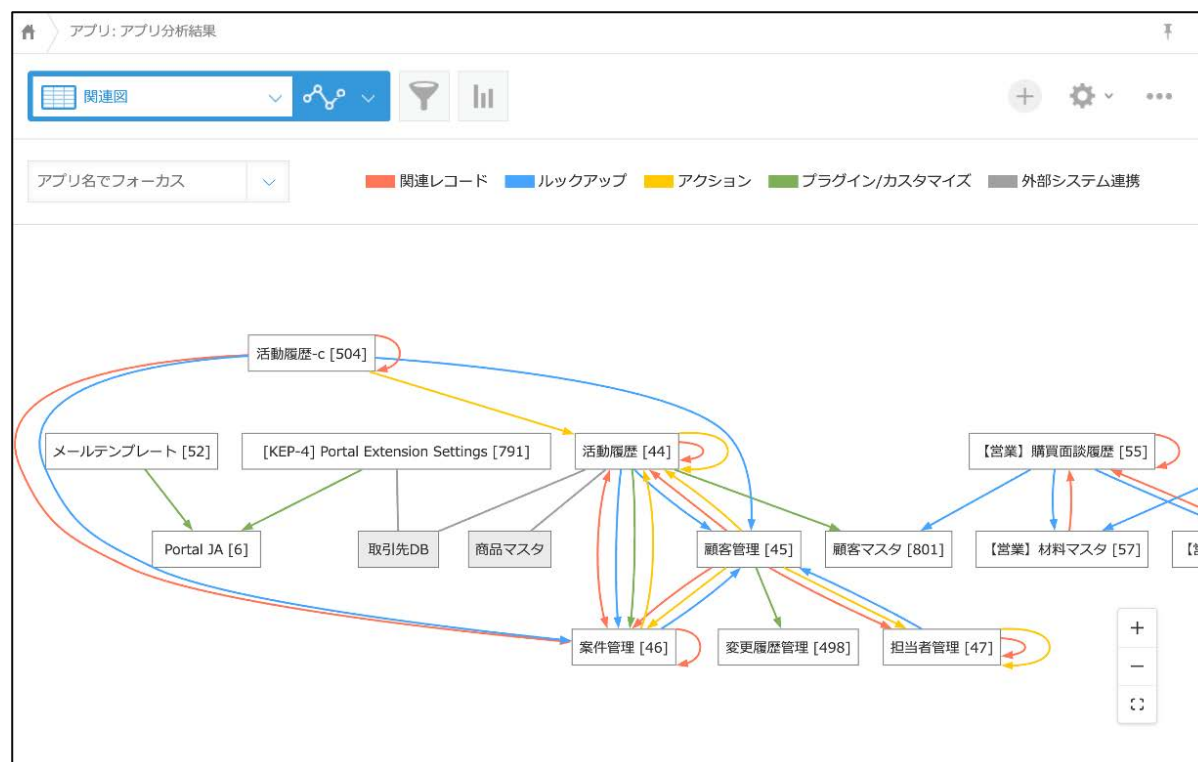
アプリ分析結果アプリには、一覧の絞り込みがあらかじめ用意されています。

レコード一覧画面で一覧名を切り替えると、条件に一致するアプリの一覧が表示されます。



5.1.1. 関連図

レコード一覧の絞り込みで「関連図」を選択すると、アプリ同士や外部システムとの連携が関連図で表示されます。



次の条件に当てはまるアプリの情報が表示されます。

- 「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない

表示される連携の種類は、次のとおりです。

- 関連レコード
- ルックアップ
- アクション
- プラグイン/カスタマイズ
- 外部システム

連携の種類や向きが、線の種類や色、矢印の向きで区別されています。

連携の設定がないアプリは、アプリ名のみが表示されます。

補足

- 同じアプリに対して、同じ種類の連携が複数あっても、連携の種類ごとに線は1本しか表示されません。
- 分析結果の情報が不足している場合は、関連図に表示されません。
- レコードのアクセス権の設定によって閲覧できない分析結果の情報は、関連図に表示されません。
- 関連図の一覧では、カテゴリーを使った絞り込みはできません。

関連図での操作について

関連図でアプリ名をクリックすると、各アプリの分析結果のレコードが表示されます。

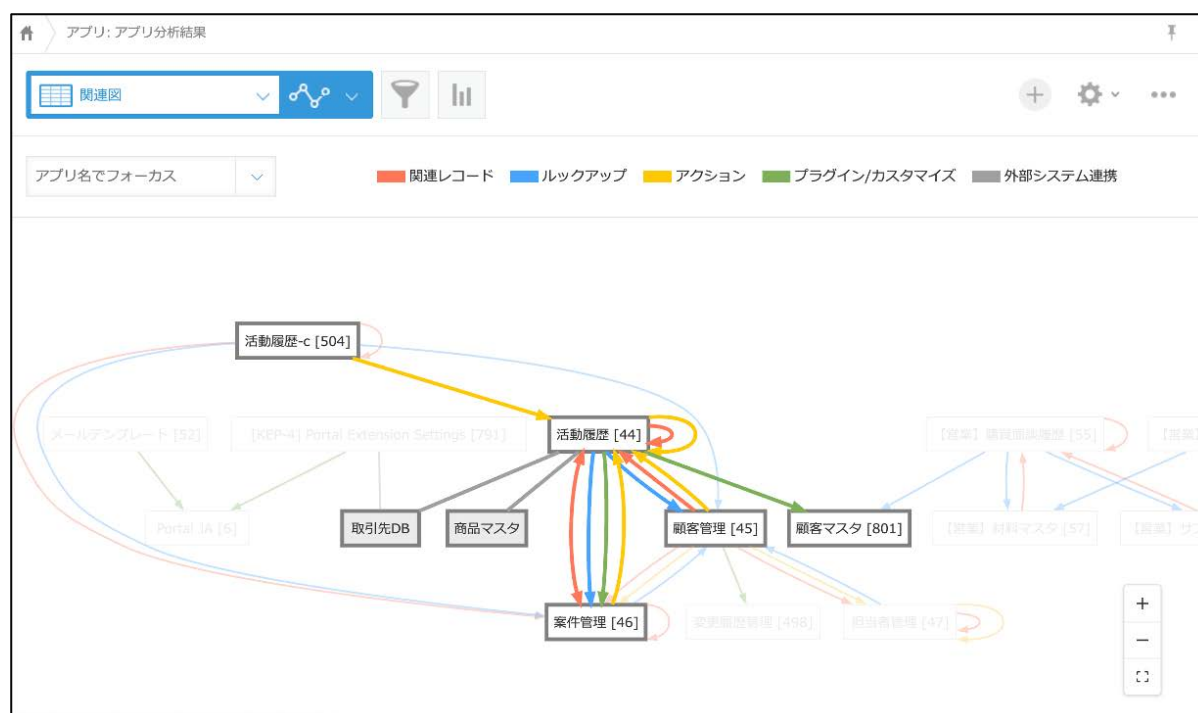
関連図で外部システム名をクリックすると、外部システム管理アプリのレコードが表示されます。

関連図で特定のアプリにフォーカスしたい場合は、関連図の左上にある入力欄にアプリ名を入力してください。表示された選択肢からアプリを選択します。

関連図の表示エリアの右下のズームボタンで、ズームインやズームアウトまたはデフォルトのサイズに戻す操作ができます。

関連図内のアプリや線にカーソルを合わせると、直接連携しているアプリや外部システムや線のみが強調表示されます。

また、線にカーソルを合わせる場合は、連携しているアプリと連携の向きが記載されたツールチップも表示されます。



5.1.2. 一覧

用意されている一覧の絞り込みについて説明します。

運用中のアプリ

次の条件に当てはまるアプリの情報が表示されます。

- ・「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない

Everyone公開権限アプリ

次の条件にすべて当てはまるアプリの情報が表示されます。

- ・「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない
- ・「アプリ利用者 - Everyone相当組織/グループアクセス可」が「YES」
- ・「スペース利用者 - Everyone相当組織/グループアクセス可（公開スペースに所属、またはスペースに所属しない場合もYES）」が「YES」

性能影響の可能性があるアプリ

次の条件にすべて当てはまるアプリの情報が表示されます。

- ・「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない
- ・「レコード数」が10,000以上
- ・「フィールド数」が30以上
- ・「レコード権限設定数」が10以上
- ・「フィールド権限設定数」が10以上
- ・「1日のAPIリクエスト数」が100以上

複雑なアプリ

次の条件にすべて当てはまるアプリの情報が表示されます。

- ・「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない
- ・「アプリ設計の複雑さレベル」が4以上

管理者が1人または不在のアプリ

次の条件にすべて当てはまるアプリの情報が表示されます。

- ・「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない
- ・「アプリ管理者 ユーザー数」が1以下
- ・「アプリ管理者 組織数」が0
- ・「アプリ管理者 グループ数」が0

管理者が不在のアプリ

次の条件にすべて当てはまるアプリの情報が表示されます。

- ・「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない
- ・「アプリ管理者 ユーザー数」が0
- ・「アプリ管理者 組織数」が0
- ・「アプリ管理者 グループ数」が0

ファイル書き出し権限がEveryone/利用者に付与されているアプリ

次の条件にすべて当てはまるアプリの情報が表示されます。

- ・「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない
- ・「ファイル書き出し権限」が「Everyone」もしくは「利用者」

5.2. 「レコードの詳細」画面

アプリごとに分析結果の詳細を確認できます。

アプリの基本情報

分析対象のアプリID

アプリIDが表示されます。

分析対象のアプリ名

アプリ名が表示されます。

アプリのステータス

アプリのステータスが表示されます。

ステータスの種類は、次のとおりです。

- ACTIVATED：公開されているアプリ
- CHANGED：公開されているアプリで、アプリの設定で未反映の変更がある
- UNKNOWN：削除されているアプリ

アプリURL

アプリのURLが表示されます。

アプリ設定URL

アプリの設定画面のURLが表示されます。

アプリグループ

アプリに設定されているアプリグループが表示されます。

システム用フィールド

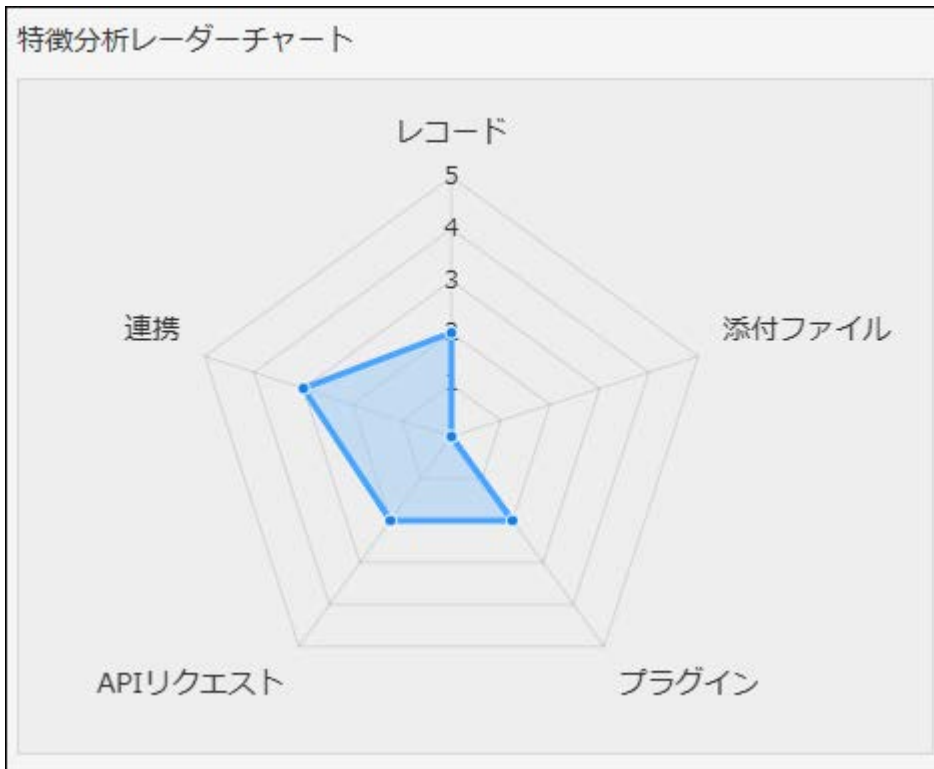
アプリ分析結果アプリのレコードを作成および更新した日付やユーザーが表示されます。

5.2.1. 特徴分析レーダーチャートとアプリ関連図

「特徴分析レーダーチャート」と「アプリ関連図」について説明します。

特徴分析レーダーチャート

アプリの特徴が、レーダーチャートで表示されます。



レーダーチャートの項目は、次のとおりです。

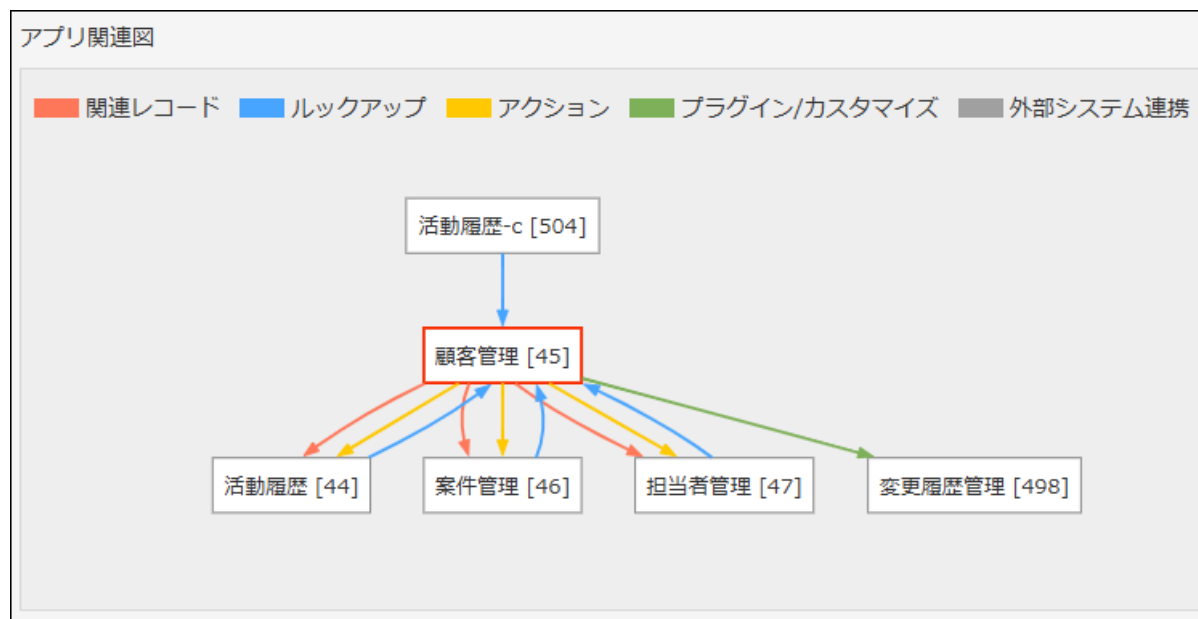
- レコード
- 添付ファイル
- プラグイン
- APIリクエスト
- 連携

チャートの値は、アプリ分析実行の設定ファイル（config.json）の「radarChart」で始まる各フィールドで指定したしきい値に従って、5段階評価したものです。

この値は「レーダーチャートのレベル」グループ内のフィールドに記載されています。

アプリ関連図

このアプリと連携しているアプリや外部システムが関連図で表示されます。
関連図に表示されるのは、このアプリとの関係までです。



表示される連携の種類は、次のとおりです。

- 関連レコード
- ルックアップ
- アクション
- プラグイン/カスタマイズ
- 外部システム

連携の種類や向きが、線の種類や色、矢印の向きで区別されています。
連携の設定がないアプリは、アプリ名のみが表示されます。

補足

- 同じアプリに対して、同じ種類の連携が複数あっても、連携の種類ごとに線は1本しか表示されません。
- 分析結果の情報が不足している場合は、関連図に表示できません。

関連図でアプリ名をクリックすると、各アプリの分析結果のレコードが表示されます。
関連図で外部システム名をクリックすると、外部システム管理アプリのレコードが表示されます。

5.2.2. 利用状況

アプリやレコードの利用状況が表示されます。

レコードの最終更新日

レコードを最後に追加または編集した日が表示されます。
ファイルを読み込むことや、APIを実行することによる更新も含まれます。

レコード数

アプリに登録されているレコードの数が表示されます。

1日のAPIリクエスト数

アプリの1日あたりのAPIリクエスト数が表示されます。

添付ファイルの合計容量 (Byte)

アプリ内にある添付ファイルの容量の合計がByte単位で表示されます。

添付ファイルの合計容量 (GB)

アプリ内にある添付ファイルの容量の合計がGB単位で表示されます。

カスタマイズ

アプリにカスタマイズの設定があるかどうかが表示されます。

次の条件のいずれかに該当する場合、「YES」が表示されます。

- JavaScriptやCSSによるカスタマイズの設定がある
- プラグインがインストールされている
- 「カスタマイズ」形式の一覧が設定されている

5.2.3. アプリ情報

アプリの作成者や管理者、利用者の情報が表示されます。

補足

削除されているユーザーや組織、グループ、および、利用停止になっているユーザーは、カウントの対象外です。

アプリオーナー

アプリのオーナー組織として、「アプリ管理者」の組織、または「アプリ管理者」のユーザーの所属する組織が表形式で表示されます。

組織に所属していないユーザーがアプリ管理者の場合、アプリのオーナー組織には表示されません。

アプリ管理者として、アプリ分析実行の設定ファイル（config.json）の systemAdminDepartment で指定したシステム管理部門と、システム管理部門以外のユーザーや組織が指定されている場合、システム管理部門はアプリのオーナー組織には表示されません。

！ オーナー組織を自動更新しない

アプリ分析ツールを実行しても、「アプリオーナー」の値が更新されないように設定できます。「レコードの編集」画面を開き、この設定の「YES」にチェックを入れてください。

アプリ作成者

アプリの作成日時や更新日時、および作成者や更新者の情報が表示されます。

！ アプリ作成日時

アプリを作成した日時が表示されます。

アプリ作成者、アプリ作成者（名前）

アプリを作成したユーザーが表示されます。

アプリ作成者の組織、アプリ作成者の組織（名前）

アプリを作成したユーザーの所属する組織が表示されます。

ユーザーの所属する組織が複数ある場合は、「優先する組織」に設定されている組織が表示されます。

アプリ最終更新日時

アプリを最後に更新した日時が表示されます。

アプリ更新者、アプリ更新者（名前）

アプリを最後に更新したユーザーが表示されます。

アプリ更新者の組織、アプリ更新者の組織（名前）

アプリを最後に更新したユーザーの所属する組織が表示されます。

ユーザーの所属する組織が複数ある場合は、「優先する組織」に設定されている組織が表示されます。

アプリ管理者

アプリを管理できる権限を持つユーザーや組織、グループが、アプリ管理者として表形式で表示されます。

アプリ管理者 ユーザー数

アプリ管理者となるユーザーの数が表示されます。

アプリ管理者 組織数

アプリ管理者となる組織の数が表示されます。

アプリ管理者 グループ数

アプリ管理者となるグループの数が表示されます。

アプリ管理者 - システム管理組織/グループに管理権限あり

アプリ管理者に、システムを管理する組織やグループが含まれているかどうかが表示されます。システムを管理する組織やグループが含まれている場合、「YES」が表示されます。

アプリ利用者

アプリを利用できる権限を持つユーザーや組織、グループが、アプリ利用者として表形式で表示されます。それぞれに付与されているアプリのアクセス権の情報も表示されます。

アプリ利用者 ユーザー数

アプリ利用者となるユーザーの数が表示されます。

アプリ利用者 組織数

アプリ利用者となる組織の数が表示されます。

アプリ利用者 グループ数

アプリ利用者となるグループの数が表示されます。

アプリ利用者 - Everyone相当組織/グループアクセス可

アプリ利用者に、システム全利用者（Everyone）相当の組織やグループが含まれているかどうかが表示されます。

システム全利用者（Everyone）相当の組織やグループが含まれている場合、「YES」が表示されます。

ファイル書き出し権限のスコープ

アプリ利用者のファイル書き出し権限のスコープが表示されます。

- 設定ファイル (config.json) の「everyoneEquivalentDepartment」または「everyoneEquivalentGroup」に設定されている組織やグループにファイル書き出し権限が付与されている場合、「Everyone」が表示されます。
- アプリ管理者ではない、かつ「everyoneEquivalentDepartment」または「everyoneEquivalentGroup」に設定されていないユーザーや組織やグループにファイル書き出し権限が付与されている場合、「利用者」が表示されます。
- アプリ管理者であるユーザーや組織やグループにのみファイル書き出し権限が付与されている場合、「管理者のみ」が表示されます。
- いずれのユーザーまたは組織、グループにもファイル書き出し権限が付与されていない場合、「なし」が表示されます。

補足

上記の複数の条件に該当する場合、「Everyone」 > 「利用者」 > 「管理者のみ」 > 「なし」の優先順位に従って選択されます。

5.2.4. スペース情報

アプリの所属するスペースの情報や、そのスペースの作成者や管理者、利用者の情報が表示されます。

スペースID

アプリの所属するスペースのスペースIDが表示されます。

スペース名

アプリの所属するスペースのスペース名が表示されます。

スペースURL

アプリの所属するスペースのURLが表示されます。

スペース種別

アプリの所属するスペースの種別が表示されます。

スペースの種別は、次のとおりです。

- Public：すべてのkintoneのユーザーが参加、閲覧できるスペース
- Private：招待されたユーザーのみが参加でき、そのスペースに参加したメンバーのみが閲覧できるスペース

スペース利用者 - Everyone相当組織/グループアクセス可（公開スペースに所属、またはスペースに所属しない場合もYES）

スペース利用者に、システム全利用者（Everyone）相当の組織やグループが含まれているかどうかが表示されます。

次の条件のいずれかに該当する場合、「YES」が表示されます。

- アプリの所属しているスペースが公開スペース
- アプリがどのスペースにも所属していない
- システム全利用者（Everyone）相当の組織やグループが含まれている

5.2.5. 設計情報

アプリの設計の複雑さや各項目の設定数が表示されます。

アプリ設計の複雑さレベル

アプリの設計の複雑さが、0から5の数値で表示されます。

この値は、次の項目をもとにアプリの設計の複雑度を計算し、アプリ分析実行の設定ファイル（config.json）のcomplexityThresholdで指定したしきい値に従って、5段階評価したものです。

- 「フィールド設定」の「フィールド数」
- 「権限設定」の「合計権限設定数」
- 「このアプリ⇒他アプリ」の「カウント」の数
- 「利用状況」の「カスタマイズ」が「YES」かどうか

フィールド設定

フィールド数

フォームに配置されているフィールドの数が表示されます。

権限設定

アプリ権限設定数

「アプリのアクセス権」の設定の数が表示されます。

レコード権限設定数

「レコードのアクセス権」の設定の数が表示されます。

フィールド権限設定数

「フィールドのアクセス権」の設定の数が表示されます。

合計権限設定数

次の項目の合計が表示されます。

- アプリ権限設定数
- レコード権限設定数
- フィールド権限設定数

連携設定

関連レコード連携数

次の項目の合計が表示されます。

- ・「このアプリ ⇒ 他アプリ」の「関連レコード（このアプリから接続しているアプリ）」のアプリの数
- ・「他アプリ ⇒ このアプリ」の「関連レコード（このアプリへ接続しているアプリ）」のアプリの数

アクション連携数

次の項目の合計が表示されます。

- ・「このアプリ ⇒ 他アプリ」の「アクション（このアプリから接続しているアプリ）」のアプリの数
- ・「他アプリ ⇒ このアプリ」の「アクション（このアプリへ接続しているアプリ）」のアプリの数

ルックアップ連携数

次の項目の合計が表示されます。

- ・「このアプリ ⇒ 他アプリ」の「ルックアップ（このアプリから接続しているアプリ）」のアプリの数
- ・「他アプリ ⇒ このアプリ」の「ルックアップ（このアプリへ接続しているアプリ）」のアプリの数

プラグイン/カスタマイズ連携数

次の項目の合計が表示されます。

- ・「このアプリ ⇒ 他アプリ」の「プラグイン/カスタマイズ（このアプリから接続しているアプリ）」のアプリの数
- ・「他アプリ ⇒ このアプリ」の「プラグイン/カスタマイズ（このアプリへ接続しているアプリ）」のアプリの数

外部システム連携数

「このアプリ ⇄ 外部システム」の「外部システム」の外部システムの数が表示されます。

合計連携数

次の項目の合計が表示されます。

- 関連レコード連携数
- アクション連携数
- ルックアップ連携数
- プラグイン/カスタマイズ連携数
- 外部システム連携数

このアプリ ⇒ 他アプリ

このアプリから接続しているアプリが表形式で表示されます。

連携の種類は、次の通りです。

- 関連レコード
- アクション
- ルックアップ
- プラグイン/カスタマイズ

各連携の表には、次の項目が表示されます。

- アプリID
- アプリ名
- アプリ分析結果アプリ内のレコード番号
- カウント

「プラグイン/カスタマイズ」の表には、次の項目を手動で入力してください。

- アプリID：このアプリから連携を接続しているアプリのIDを入力
- カウント：「1」を入力

アプリ分析ツールを実行すると、残りの項目が自動的に入力されます。

他アプリ ⇒ このアプリ

このアプリへ接続しているアプリが表形式で表示されます。

連携の種類は、次の通りです。

- 関連レコード
- アクション
- ルックアップ
- プラグイン/カスタマイズ

各連携の表には、次の項目が表示されます。

- アプリID
- アプリ名
- アプリ分析結果アプリ内のレコード番号
- カウント

このアプリ ⇄ 外部システム

このアプリと接続している外部システムが表形式で表示されます。

この項目は、手動で入力する必要があります。

「レコードの編集」画面を開き、「外部システム名」の[取得]をクリックして、外部システムを選択してください。

選択した外部システムに応じて、次の項目が自動的に入力されます。

- 外部システム管理アプリ内のレコード番号
- カウント

5.2.6. プラグイン

アプリにインストールされているプラグインの情報が、表形式で表示されます。

表には、次の項目が表示されます。

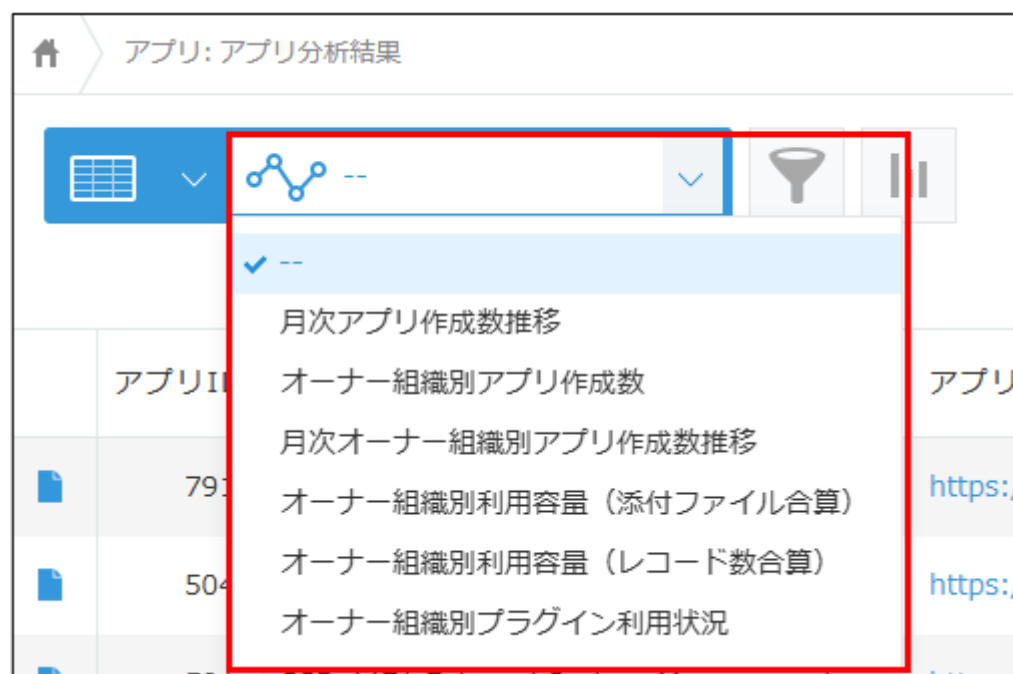
- プラグインID
- プラグイン名
- プラグインバージョン
- カウント

適用プラグイン数

このアプリにインストールされているプラグイン数の合計が表示されます。

5.3. グラフ

アプリ分析結果アプリには、グラフの設定があらかじめ用意されています。
レコード一覧画面でグラフ名を切り替えると、設定に応じたグラフが表示されます。



次の条件に当てはまるアプリの情報が表示されます。

- 「アプリのステータス」が「UNKNOWN」ではない

 補足

グラフの条件により、集計結果が表示できる制限を超えて、エラーが表示されることがあります。エラーが表示された場合は、グラフの条件を変更し、表示される集計結果を調整してください。

エラーや対処方法の詳細については、kintoneヘルプの次のページを参照してください。

[グラフに「項目が多すぎます。先頭500項目のみ表示されています。」と表示される](#)

用意されているグラフの絞り込みについて説明します。

月次アプリ作成数推移

過去6か月間の月ごとのアプリの作成数が、曲線グラフで表示されます。

オーナー組織別アプリ作成数

アプリのオーナー組織ごとに作成したアプリ数が、円グラフで表示されます。

月次オーナー組織別アプリ作成数推移

過去6か月間の月ごとのアプリの作成数が、アプリのオーナー組織ごとに折れ線グラフで表示されます。

オーナー組織別利用容量（添付ファイル合算）

アプリのオーナー組織ごとの利用容量が、添付ファイルの容量の合計をもとに円グラフで表示されます。

オーナー組織別利用容量（レコード数合算）

アプリのオーナー組織ごとの利用容量が、レコード数の合計をもとに円グラフで表示されます。

オーナー組織別プラグイン利用状況

プラグインごとに利用しているアプリ数が、アプリのオーナー組織ごとに積み上げられた縦棒グラフで表示されます。

6章 モニタリング機能の追加

アプリ分析機能に、モニタリング機能を追加できます。

モニタリング機能を使うと、アプリ分析結果アプリのデータをもとに、ガバナンス違反の対象となるアプリをさまざまな条件で絞り込んで、担当者に通知できます。

たとえば、「アプリ管理者数が1名」を条件として設定し、定期的にツールを実行することで、属人化したアプリを把握できます。

また、アプリ分析結果アプリだけでは対応が難しかった次のようなケースにも対応できます。

- AND/OR の組み合わせなど、複雑な条件でのガバナンス違反対象アプリの絞り込み
- kintoneアプリのリマインダーの条件通知の上限数（10件）に制限されない通知条件の設定
- 設定した条件に一致したアプリが複数あっても、担当者への通知は1件に集約



6.1. モニタリング機能の設定

モニタリング機能を使い始めるために必要な設定について、説明します。

モニタリング機能を使うための設定は、次の手順で行います。

[STEP1：アプリを追加する\(53ページ\)](#)

[STEP2：カスタマイズファイルをアプリに適用する\(55ページ\)](#)

[STEP3：設定ファイルに情報を入力する\(57ページ\)](#)

[STEP4：モニタリングツールを配置する\(59ページ\)](#)

[STEP5：モニタリング条件と通知を設定する\(59ページ\)](#)

❗ 注意

モニタリング機能は、アプリ分析機能と同じユーザーアカウントで設定します。
また、アプリ分析機能の設定と実行があらかじめ完了している必要があります。

6.1.1. STEP1：アプリを追加する

モニタリング機能を使うためのアプリを追加します。

モニタリング設定アプリとモニタリング結果アプリの追加

アプリテンプレートを使って、モニタリング設定アプリとモニタリング結果アプリの2つのアプリを一度に追加します。

手順

1. kintoneのポータルで、「アプリ」欄にある+の形をした「アプリを作成する」アイコンをクリックします。



💡 ヒント

［オプション］アイコンをクリックして、［アプリを作成］を選択することもできます。



2. [テンプレートファイルを読み込んで作成] をクリックします。
3. [テンプレートファイルを読み込んで作成] ダイアログで、[参照] をクリックし、.zip ファイル形式のテンプレートファイルを選択します。
4. [アプリを作成] をクリックします。

テンプレートファイルを読み込んで作成

?

 ヘルプ

kintoneで作成したテンプレートファイルを読み込んで、アプリを作成します。
[参照]を押して、ファイル(.zip)を選択してください。

※ 信頼できるテンプレートファイル以外は読み込まないでください。
※ 登録済みのテンプレートからアプリを作成する場合は、「登録済みのテンプレートから作成」を利用してください。

app-analysis-monitoring_v..._app-template.zip

4 KB

参照

(最大100 MB)

作成をやめる

アプリを作成

これで、モニタリング設定アプリとモニタリング結果アプリが追加できました。

6.1.2. STEP2：カスタマイズファイルをアプリに適用する

カスタマイズファイルを編集し、モニタリング設定アプリとモニタリング結果アプリに適用します。2つのアプリには同じカスタマイズファイルを適用します。

カスタマイズファイルの編集

まず、カスタマイズファイルの内容を編集します。

1. アプリ分析結果アプリの「レコードの一覧」画面を開いて、表示されるURLからアプリのIDを確認します。
URLの末尾に表示されている数字が、アプリのIDです。このアプリのIDは、手順3で使用

します。

https:// (サブドメイン名) .cybozu.com/k/ (アプリのID)

2. 「monitoring_configuration_customization.js」を開きます。
3. 「APP_ANALYSIS_RESULT_APP_ID:」に続いて書かれている数値を、手順1で確認したアプリのIDに変更します。

```
1 window.monitoringCustomization={APP_ANALYSIS_RESULT_APP_ID:0};
```

4. 「monitoring_configuration_customization.js」を保存します。

これで、「monitoring_configuration_customization.js」の準備ができました。

カスタマイズファイルの適用

次に、カスタマイズファイルをモニタリング設定アプリとモニタリング結果アプリに適用します。この操作には、kintoneシステム管理権限が必要です。

1. [「STEP1：アプリを追加する」\(53ページ\)](#)で追加したモニタリング設定アプリを開きます。
2. 「レコードの一覧」画面の右上にある歯車の形をしたアプリ設定アイコンをクリックします。



3. [設定] タブの「カスタマイズ／サービス連携」にある「JavaScript / CSSでカスタマイズ」を選択します。
4. 「適用範囲」で「すべてのユーザーに適用」を選択します。
5. 「PC用のJavaScript / CSSファイル」の「JavaScriptファイル」の「アップロードして追加」をクリックし、次の2つのファイルを追加します。
 - monitoring_configuration_customization.js
このファイルが上になるように追加してください。
 - monitoring-customization_v*.*.js

6. 「PC用のJavaScript / CSSファイル」の「CSSファイル」の[アップロードして追加]をクリックし、次のファイルを追加します。
monitoring-customization_v*.*.css
7. 画面右下の[保存]をクリックします。
8. 画面右上の[アプリを更新]をクリックします。
9. 確認ダイアログで[アプリを更新]をクリックします。
カスタマイズファイルがアプリに反映されます。

[「STEP1：アプリを追加する」\(53ページ\)](#)で追加したモニタリング結果アプリを開き、手順2から手順9の操作を繰り返します。

これで、カスタマイズファイルがモニタリング設定アプリとモニタリング結果アプリに適用されました。

6.1.3. STEP3：設定ファイルに情報を入力する

アプリ分析実行の設定ファイル（config.json）のモニタリング機能のためのフィールドに入力します。

設定ファイルについての詳細は、次のページを参照してください。

[STEP2：設定ファイルに情報を入力する\(12ページ\)](#)

手順

1. アプリ分析実行の設定ファイル（config.json）を、任意のエディタで開きます。
2. 次のモニタリング機能のためのフィールドに、対象のアプリのIDを入力します。

```
13      "monitoringSettingsApp": {  
14      |   "appId": "231"  
15      | },  
16      "monitoringResultApp": {  
17      |   "appId": "230"
```

各フィールドについての詳細は、次の項目を参照してください。

[モニタリング機能のためのフィールド](#)

3. ファイルを保存します。

モニタリング機能のためのフィールド

モニタリング機能を使うために入力するフィールドについて説明します。

| monitoringSettingsApp.appId

型

文字列

説明

モニタリング設定アプリのIDを入力します。

| monitoringResultApp.appId

型

文字列

説明

モニタリング結果アプリのIDを入力します。

6.1.4. STEP4：モニタリングツールを配置する

モニタリングツールを、アプリ分析ツールと同じフォルダに配置します。

手順

1. 次のファイルを、アプリ分析ツールと同じフォルダに配置します。
app-analysis-monitoring-tool_v*.*.js

配置後のフォルダ構成は、次のとおりです。

```
.  
├ app-analysis-key-generation-tool_v*.*.js  
├ app-analysis-monitoring-tool_v*.*.js  
├ app-analysis-tool_v*.*.js  
├ config.json  
├ private-key.ppk  
└ public-key.ppk
```

6.1.5. STEP5：モニタリング条件と通知先を設定する

モニタリング設定アプリに、モニタリング条件のレコードを登録します。登録した条件をもとに、モニタリングツールがアプリ分析結果アプリのレコードを検索します。

通知先を設定すると、モニタリングツールの実行結果を担当者に通知できます。

手順

1. [「STEP1：アプリを追加する」\(53ページ\)](#)で追加したモニタリング設定アプリを開きます。
2. 「レコードの一覧」画面の右上にある+の形をした「レコードを追加する」アイコンをクリックします。

3. 各フィールドに情報を入力します。
各フィールドについての詳細は、次の項目を参照してください。
[モニタリング条件の設定](#)

4. 「保存」をクリックします。

モニタリング条件を複数登録する場合は、手順2から手順4の操作を繰り返します。

補足

モニタリングツールを実行する前に、モニタリング条件が正しく設定されているかを確認できます。

レコード登録後に、画面上部の「対象のアプリ一覧を開く」ボタンをクリックします。



正しく設定されていれば、アプリ分析結果アプリに遷移し、設定したモニタリング条件に一致するアプリの一覧が表示されます。

なお、アプリ分析結果アプリに遷移した後に、「レコードの一覧」画面の「絞り込む」アイコンをクリックすると、設定したモニタリング条件の内容によっては、「絞り込む」ダイアログが正しく表示されないことがあります。また、「絞り込む」ダイアログで新たに絞り込み条件を適用すると、モニタリング条件で設定された絞り込みが上書きされます。

モニタリング条件の設定

次のフィールドにモニタリング条件を設定します。

モニタリングタイトル

モニタリング条件のタイトルを入力します。入力必須です。

モニタリングを有効にする

チェックを入れると、モニタリングツール実行時に、「モニタリング条件」フィールドに入力したクエリをもとにモニタリングが行われます。

初期値ではチェックが入っています。チェックを外すと、モニタリングは行われません。

モニタリング条件

アプリ分析結果アプリのレコードを絞り込むクエリを入力します。入力必須です。
クエリの書き方の詳細は、cybozu developer networkの次のページを参照してください。

[クエリの書き方](#)

補足

クエリの書き方の「[オプション](#)」に記載されている order by、limit、offset は指定できません。指定した場合、その値は無視されます。

ヒント

クエリの書き方の例を次に示します。

- アクセス可能なユーザーがEveryoneに設定されているアプリを絞り込むクエリの例：
app_status not in ("UNKNOWN") and can_everyone_access_to_app in ("YES") and
can_everyone_access_to_space in ("YES")
- アプリの管理者数が0のアプリを絞り込むクエリの例：
app_status not in ("UNKNOWN") and app_admin_user_count = 0 and
app_admin_department_count = 0 and app_admin_group_count = 0

備考

モニタリング条件についての補足情報を入力します。入力は任意です。

閾値

モニタリング条件に一致するアプリ数がこの数値以上になった場合に、通知先として指定されたユーザー、組織、グループに通知が送信されます。

入力は必須です。1が初期値として入力されています。変更する場合は、1以上の値を入力してください。

通知先ユーザー

通知を受け取るユーザーを指定します。指定は任意です。

通知先組織

通知を受け取る組織を指定します。指定は任意です。
指定した組織の下位組織も含めて通知が送信されます。

通知先グループ

通知を受け取るグループを指定します。指定は任意です。

補足

モニタリングツールを実行した翌日の午前9時に、通知が送信されます。

- モニタリング結果アプリの「モニタリング実行結果」が「Failed」の場合：モニタリング条件を設定したユーザーに通知が送信されます。
- モニタリング結果アプリの「モニタリング実行結果」が「Succeeded」かつ「閾値超過数」が0以上の場合：「通知先ユーザー」「通知先組織」「通知先グループ」に設定されているユーザー、組織、グループに通知が送信されます。

通知のタイミングは、モニタリング結果アプリのリマインダーの条件通知設定から変更できます。

リマインダーの条件通知の詳細については、kintoneヘルプの次のページを参照してください。

[リマインダーの条件通知：日時を条件にしたリマインド通知を設定する](#)

6.2. モニタリングの実行

モニタリングツールを実行して、モニタリングを行います。

手順

1. コマンドラインインターフェイス（CLI）を開きます。
2. CLIでモニタリングツールが保存されているフォルダに移動します。
3. 次のコマンドを実行して、モニタリングツールを実行します。
`node app-analysis-monitoring-tool_v*.*.js`
(v*.*は、モニタリングツールのバージョンです。)

モニタリングツールの実行が成功すると、「Monitoring Tool completed successfully.」というメッセージが表示され、モニタリング結果アプリに結果が反映されます。

エラーが表示された場合は、エラーの内容を確認し、モニタリング条件や設定ファイル（config.json）の内容を修正したうえで、再度モニタリングツールを実行してください。

補足

- 前回モニタリングツールを実行した際に失敗したかスキップされた条件のみを対象に、ツールを実行できます。ツールを実行する際に、--target オプションを使用します。詳細は、次の項目を参照してください。

[コマンドラインオプション](#)

- 設定ファイル（config.json）の showLogInfo フィールドが true に設定されている場合、モニタリングツールの動作についてのINFOレベルのログ情報が表示されます。showLogInfo フィールドについての詳細は、次のページを参照してください。
[showLogInfo\(13ページ\)](#)

コマンドラインオプション

モニタリングツールは、次のコマンドラインオプションを使用できます。

--target

前回実行した際に失敗したかスキップされた条件、もしくは指定した条件レコードのみを対象に、モニタリングツールを実行します。

値	説明
"failed-and-skipped"	前回実行した際に、モニタリング結果アプリのモニタリング実行結果が「Failed」になった条件と、モニタリングツールのエラーによりモニタリング結果アプリへのレコードの登録がスキップされた条件を対象に、ツールを実行します。
"<レコードID>,<レコードID>,..."	モニタリング設定アプリの指定したレコードIDの条件を対象にツールを実行します。複数のIDはカンマで区切ります。

- 前回実行した際に失敗したかスキップされた条件を対象に実行する例：
node app-analysis-monitoring-tool_v*.*.js --target="failed-and-skipped"
(v*.*は、モニタリングツールのバージョンです。)
- 特定のレコードIDの条件を対象に実行する例：
node app-analysis-monitoring-tool_v*.*.js --target="1,2,10"
(v*.*は、モニタリングツールのバージョンです。)

補足

--target="failed-and-skipped" を使用するには、前回実行した際に生成された latest-monitoring-result.json ファイルが必要です。このファイルはモニタリングツールと同じフォルダに保存されます。

-h, --help

使用方法とオプションの一覧を表示します。

- 使用方法とオプションの一覧を表示する例：
node app-analysis-monitoring-tool_v*.*.js --help
(v*.*は、モニタリングツールのバージョンです。)

6.3. モニタリング結果の見かた

モニタリングツールを実行すると、モニタリング設定アプリに登録された条件に基づいてアプリ分析結果アプリが検索され、結果がモニタリング結果アプリに登録されます。

ここでは、モニタリング結果アプリのレコードの見かたを説明します。

6.3.1. 「レコードの一覧」画面

モニタリング結果アプリには、一覧の絞り込みがあらかじめ用意されています。

一覧名を切り替えると、モニタリングツールの実行結果で絞り込まれたレコードが表示されます。



一覧

用意されている一覧の絞り込みについて説明します。

実行成功

「モニタリング実行結果」が「Succeeded」のレコードが表示されます。

実行失敗

「モニタリング実行結果」が「Failed」のレコードが表示されます。

（すべて）

すべてのレコードが表示されます。

6.3.2. 「レコードの詳細」画面

ここでは、モニタリング結果アプリの「レコードの詳細」画面の見かたを説明します。

対象のアプリ一覧を開く

「対象のアプリ一覧を開く」をクリックすると、アプリ分析結果アプリに遷移し、モニタリング条件に一致するアプリの一覧が表示されます。



補足

「対象のアプリ一覧を開く」ボタンをクリックしてアプリ分析結果アプリに遷移した後に、アプリ一覧画面の「絞り込む」アイコンをクリックすると、モニタリング設定アプリで設定した条件によっては、「絞り込む」ダイアログが正しく表示されないことがあります。また、「絞り込む」ダイアログで新たに絞り込み条件を適用すると、モニタリング設定アプリで設定された絞り込み条件が上書きされます。

条件の登録者

モニタリング設定アプリで条件レコードを登録したユーザーが表示されます。

モニタリングタイトル

モニタリング設定アプリの条件レコードに設定されているタイトルが表示されます。

モニタリング実行結果

モニタリングツールの実行結果が表示されます。

- Succeeded：モニタリングツールの実行が成功した。
- Failed：モニタリングツールの実行が失敗した。

補足

モニタリング設定アプリの「モニタリング条件」フィールドで、クエリの書き方が間違っている場合や、クエリ内で指定しているフィールドに閲覧権限が無い場合に、モニタリング実行結果が「Failed」になります。「エラーメッセージ」フィールドに表示されるエラー内容を確認の上、クエリを修正してください。

詳細は、次の項目を参照してください。

[エラーメッセージ](#)

モニタリング条件

モニタリング設定アプリの条件レコードに設定されているモニタリング条件が表示されます。

条件レコード

モニタリング設定アプリの条件レコードのURLが表示されます。

エラーメッセージ

「モニタリング実行結果」が「Failed」の場合に、エラーの内容が表示されます。

補足

エラーの内容を確認し、モニタリング条件や設定ファイル（config.json）の内容を修正したうえで、再度モニタリングツールを実行してください。

モニタリングツールを実行する際に、--target オプションを使用すると、前回実行した際に失敗したかスキップされた条件のみを対象にツールを実行できます。

詳細は、次のページを参照してください。

[コマンドラインオプション\(63ページ\)](#)

一致した数

モニタリング設定アプリの条件レコードに設定されているモニタリング条件に一致した、アプリの件数が表示されます。

閾値

モニタリング設定アプリの条件レコードに設定されている閾値が表示されます。

閾値超過数

「閾値」を超過した値です。「一致した数」から「閾値」を引いた値が表示されます。

通知先ユーザー

モニタリング設定アプリの条件レコードに設定されている通知先ユーザーが表示されます。

通知先組織

モニタリング設定アプリの条件レコードに設定されている通知先組織が表示されます。

通知先グループ

モニタリング設定アプリの条件レコードに設定されている通知先グループが表示されます。

7 章 制限事項

アプリ分析機能の制限事項は、次のとおりです。

- アプリ分析機能がサポートしている言語は、日本語のみです。ただし、アプリ分析ツールやアプリ分析キー生成ツールの実行時のログは英語で表示されます。
- アプリ分析は、1ドメインのみ可能です。
- アプリ分析ツールの実行は最大3000アプリの環境を想定しています。これを超えてアプリ数が存在する環境での分析は性能に影響が発生する可能性があります。
- ゲストスペース内のアプリは分析対象外です。
- アプリ分析ツールを実行したユーザー以外のユーザーが作成したPrivateに所属するアプリは、分析対象外です。
- アプリ分析ツールを実行したユーザーが所属していないPrivateスペースのメンバー情報は、取得できません。
この場合、対象スペースに関する権限エラー（例：[ERROR][Space ID:xx][CB_NO2] 権限がありません 等のメッセージ）が表示されますが、本制限事項に該当する想定内の動作です。
アプリ情報自体は正常に取得・登録されており、アプリ分析ツールの再実行は不要です。
- アプリ分析ツールは、組織間のアクセスを禁止しているドメインでの利用は動作保証外です。
- アプリ分析ツールは、Basic認証やセキュアアクセスに対応していません。分析対象のkintoneでIPアドレスの制限が設定されている場合、アプリ分析ツールが実行される環境のIPアドレスをkintoneで許可する必要があります。
- アプリ分析ツールは、SAML認証が設定されているドメインで問題なく動作します。設定ファイルには、cybozu.com共通管理画面で設定したcybozu.com共通管理者のIDとパスワードを指定してください。
- アプリ分析結果アプリは、モバイル版での利用は動作保証外です。
- アプリ分析結果アプリの「関連図」一覧にてカテゴリーを使った絞り込みはできません。
- アプリテンプレートに設定されているグラフについて制限値を超えた場合、エラーが発生することがあります。（表示期間が長い場合や組織と表示期間、プラグインと組織の組み合わせで項目が増えた場合など）
kintoneの制限値を超える場合は、グラフを表示する条件を変更する、または集計を調整してください。
エラーや対処方法の詳細については、kintoneの次のページを参照してください。
[グラフに「項目が多すぎます。先頭500項目のみ表示されています。」と表示される](#)

発行日:2026年7月1日
© Cybozu